

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

注目されていた英国の国民投票の結果は、大方の予想を裏切る EU 離脱となりました。ドル/円相場は直近の安値 103 円 55 銭をあっさり割り込み、2013 年 11 月以来の 100 円割れとなり、一時 99 円ちょうどの安値まで下落しました。

【ドル/円 週足】



英国の EU 離脱は世界経済の先行き不透明感を強め、また米国の早期利上げを妨げるものと捉えられており、中期的にドル/円は円安に大きく戻る見通しはとて描けず、95 円割れをもイメージする必要が出てきました。

95 円水準は、2011 年の安値から 2015 年の高値の 61.8%戻しとなっており、当面のドル/円の下値の目処となります。

しかし、52 週移動平均との乖離で見ると、6 月 24 日につけた 99 円では約 15%の下方乖離となり、リーマンショックを受けドルが下落した 2008 年の下方乖離とほぼ同じ水準になりことから、過度な下がり過ぎの反動での短期的なドルの戻りも期待されます。

また、10 兆円規模の大型補正予算への期待やヘリコプターマネー政策への思惑が円の上値を抑える要因となっていることから、当面は再び 100 円～110 円のレンジ相場が続くこととなりそうです。

## ■ 短期展望

先週は、一時 100 円 70 銭近辺まで下押しする局面があったものの、週末の米雇用統計が予想を

## ドル/円相場のトレード戦略

---

上回ったことを受け 102 円台まで値を戻す動きとなりました。

しかし、良好な米雇用統計を受けてもドルの上昇幅が約 1 円にとどまったことは、ドルの上値の重さを現しているようにも見えます。

ただし、日銀の追加緩和期待が根強いことや米国の年内利上げの可能性が残っていることからドルの下値にも限りがあり、目先 100 円割れは回避されそうです。

したがって今週も先週同様 101 円～104 円のレンジ相場を想定して、戻り売りをメインの戦略と考えます。

また、海外勢の夏季休暇シーズンや本邦勢のお盆休み期間で流動性が乏しくなる可能性が高いことから、突発的な荒っぽい動きが生じる展開を警戒しておく必要があるでしょう。